

第 24 回 日本赤十字社診療放射線技師会 九州ブロック研修会報告

開催日 令和 7 年 2 月 1 日（土）、2 日（日）
担当施設 大分赤十字病院
会場 大分赤十字病院 管理棟 5 F 大会議室
参加者 10 施設 42 名

2 月 1 日（土）

令和 7 年 2 月 1 日（土）、2 日（日）の 2 日間で第 24 回日本赤十字社診療放射線技師会九州ブロック研修会が大分赤十字病院主催により 10 施設 42 名の参加者で開催された。

開会に先立ち主催施設代表の豊本技師長から挨拶が行われた。

ランチョンセミナーは富士フイルムメディカル株式会社による 2 部制で行った
第 1 部はマンモグラフィ装置 AMULET SOPHINITY の特徴や新機能の紹介、トモシンセシスの運用についてのアンケート結果や他施設の運用例についての講演。
第 2 部は世界初のヘリウムゼロ MR 装置 ECHELON SmartZeroHelium についての製品紹介、ヘリウムフリーによる安全管理、設置条件のメリット、AI 搭載の性能についての講演。

会長講演

『日本赤十字社の動向と新しく各施設で検討する勘どころ』と題した、日本赤十字社診療放射線技師会荒井会長による講演。

赤十字全体についてグラフ等を用いた経営状況の説明があり、グループの医療の質向上や経営効率の向上の必要性について話があった。また赤十字の災害医療や能登地震についても説明があった。今後の方向性として、医療機器の購入は共同入札への参加が進められるという話があった。

情報提供

加藤副会長から日本赤十字社診療放射線技師会 新ホームページ・SNS の紹介が行われた。

教育講演 I

『将来を見据えた JART 事業の在り方』と題した、公益社団法人日本放射線技師会江藤副会長による講演。

JART 事業の目的は、無駄を省いて組織を強化する事、会員のレベルアップの為に生涯学習を充実させる事など話された。将来的に人口減の為、検査数が減少し放射線技師が過剰になってくるので、他部署との連携が重要になるとの事でした。治療から予防へのシフトとして予防医療への関心が高まっており、検診業務の普及が重要である事など話された。

代表者会議終了後、情報交換会

豊本技師長の乾杯の挨拶で宴が始まった。初参加の会員の自己紹介では笑いに包まれ会員同士の親睦を深めた情報交換会となった。

2月2日（日）

教育講演Ⅱ

『医療安全推進の実践～ヒューマンエラーの理解～見方・考え方を変えてみませんか?』と題した、末吉聖二先生による講演。

医療安全管理取り組みの経緯や医療事故に対する国のアクションの話で始まり、インシデントレポートの重要性、ヒューマンエラーに対する見方・考え方、改善策実施のポイント等を分かり易く丁寧に講演していただいた。講演内容を職場で活用し、医療事故ゼロを目指したいと思えたお話であった。

研究発表

第1演題 凍田会員による『待ち時間短縮への取り組み』

第2演題 松永会員による『乳がん検診の成績と課題』

第3演題 落合会員による『膝関節軸位撮影の補助具の有効性』

どの演題も活発な質疑応答が行われ有意義な研究発表が行われた。

次回担当施設代表の唐津赤十字病院 江口課長から挨拶をいただいた。

最後に担当施設である櫛野課長による閉会の挨拶で研修会は終了した。

今回ご参加いただいた皆様、開催にあたりご協力いただきました皆様すべてに心より感謝申し上げます、研修会報告といたします。